

# 耳よりな話

N.49

平成 26 年 7 月 23 日発行

(労働・社会保険ニュース)

## 阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: [abenenkin@ybb.ne.jp](mailto:abenenkin@ybb.ne.jp)

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

## ◎出生率やや上向き

年金制度にとって非常に重要な人口出生率がやや改善されつつあります。

平成 24 年度合計特殊出生率は前年比 0.02%増の 1.41 となり、16 年ぶりに 1.4%台になりました。さらに平成 25 年度は 1.43%となり、やや改善の方向にあるようです。

平成 25 年度の出生数は 102 万 9800 人 (しかし過去最低数)、死亡者数は 126 万 8432 人となり人口の自然減少数は 23 万 8632 人でした。子供が事故や虐待を受けて死亡するのは本当に可哀そうであり、残念なことです。

## 【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

\* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。

## 私の☆☆☆☆☆

美味しいものへの出会いは正に至福のときです。

「美味しいものに出会ったら人にも教え、共有することでその美味しさはさらに美味しくなる」と著名な流行作家が言っています。

また、心のこもった贈物、気の利いた贈物は、贈り主の人柄が偲べれます。しかし、これら美味しいもの、銘品も一人で発見するには限界があります。



社会でのご経験豊かな方々に、マル秘「私の☆☆☆☆☆」をご紹介します。

今回は 川崎定徳（株）常勤監査役 **川崎 善保**さんから著名な文学作品から「食」についての本や作家、印象深い文章のご紹介を頂きました。

池波 正太郎著「食卓の情景」では、皆さん自身が実際にご賞味した店・味がたくさん出てくるのではないのでしょうか。

**川崎 善保**（かわさき よしやす）さんは成蹊大学を卒業後、旧日本火災海上保険に入社、山梨支店副支店長、関連部長等を経て川崎定徳（株）常勤監査役の傍ら、旧川崎財閥の由緒古事、文献の蒐集に尽力し、先祖の偉業を整理しておられます。

（\*）川崎財閥…戦前の旧八大財閥（三井、三菱、住友、安田、川崎、古川、大倉、浅野）の一つ。水戸第2代藩主光圀の時代から郷土待遇に取り立てられていた川崎家は、幕末川崎八右衛門の時、水戸藩銭座取締りに任命され藩内流通の「とら銭」鑄造を任された。それを契機に発展し中核会社「川崎定徳」を設立後、川崎第百銀行（三菱銀行と合併）、常陽銀行、千葉銀行、足利銀行、日本信託銀行、日本火災、第百生命等を支配下においた金融財閥。

## 打順

### 1番 壇一雄 「美味放浪記」

国内はもとより、海外各地での食経験も豊富で、旅行先ではキッチン付きの宿をもとめ、地元素材を大量に買い込んで調理するほどの実践派。

縄暖簾から高級グルメ料理までなんでもござれで、奔放かつタフに食道を追求しています。

トップバッターとして内外角のストレートや変化球等あらゆる球種に対応し、出塁率が圧倒的に高いと言えます。

ときおり、二日酔いで好球を見逃したり、色っぽい観客に目がいきます。

### 2番 池波正太郎 「食卓の情景」

「鬼平犯科帳」でおなじみの軍鶏鍋をはじめ、葱入りの煎り卵等、昔の日本食がいかに旨かったかをしみじみと感じさせます。

おまさを相手に一杯飲みたい気分させる料理がならびますが、この人も外国リーグ（海外の食経験）が豊かです。

このチームの1、2番の打順はそれぞれの体調によって入れ替わりますが、共にあらゆる球をこなしますから必ず得点圏にからみます。

甘味や菓子など、器用にバントもこなします。

### 3番 開高健 「最後の晚餐」

圧倒的な迫力で打席に立ち、馬力と腕力で少々のデッドボールなぞ膨大な知識で物ともしません。

ただし、「最後の晚餐」は飲み食いをしてながら読まないほうがよろしく、その文章力と相俟って究極の人間の欲望（喫人の話）に気押されます。

相手チームもその徹底的な攻撃姿勢にあきれかえるでしょう。

#### 4番 丸谷才一 「食通知ったかぶり」

4番バッターを誰にするか！ 作家チームとしては文章力からしてやはりこの人になるのかと思います。

30年ほど前に発刊された「食通知ったかぶり」では、今ほど流通が発達していなかった時代の日本各地の食処や素材の貴重な描写に、口元が締まらなくなります。

文章表現にうるさい人らしく、きっちりと品格が高く、威厳あふれるハイアベレージの4番バッターです。

#### 5番 秋山徳三 「舌」

たとえ、4番が凡打に倒れても逆転ホームランが期待できる強力な5番です。ピッチャーはまず、その球歴（大正、昭和2代天皇の調理番）にすくんでしまい、どこへ投げたらいいか判らなくなるはずです。

スイング理論（文章力）ではなく、圧倒的な打点力です。

バット（包丁）の素材や手入れの話も興味がつきません。法隆寺の宮大工・西岡常一（「木に学べ」）の話に通じるものがあります。

「人間の五感のうちで最も文字に表しにくいのは味覚と嗅覚」の話では「食」についての文章表現が如何に難しいか納得です。

#### 6番 吉田健一 「私の食物誌」

4番と同様に文体の名手が登場するのは個人の好みなので勘弁いただきたいと思います。

吉田茂の息子として不自由の無い生活環境でしたが、文才と酒才（こんな言葉は無いのですが）に恵まれた頑固なバッティング理論の持ち主です。

センターオーバーのヒットを打ちますが、アルコール過多の走力不足でセカンドまでの長打にならないことがあります。

戦前の鎌倉の海で伊勢海老が採れた話や、長浜の鴨料理などはウムと唸りたくなります。

#### 7番 ヘミングウェイ 「河を渡って木立の中へ」

昔活躍した食についての有名作家のうちでは、馴染みのうすい選手はこの打線からは外れています。（村井弦斎、木下謙次郎、小島政二郎・・・など）

そこで、食については外せない外人助っ人を入れてみました。

この助っ人は誇り高く7番には納得しないでしょうが、フローズンダイキリでもたっぷり奢って納得してもらいましょう。

百回近く校正をしたと言われる「老人と海」の無駄の無い削ぎ立つような文中では、シイラを刺身で食べる場面などが印象的です。

「日はまた昇る」、「河を渡って木立の中へ」などでも絵になる描写（必ずしもグルメ料理ではありません）はなんども読み返したくなります。

#### 8番 久保俊治 「熊撃ち」

下位打線には個性豊かな新人を入れてみました。ジビエが好きな小生の好みからです。ジビエについては名店や野性味溢れる本が有りますが、「熊撃ち」は猟師本人の実体験を書

いたノンフィクションと言える内容で、主題は食ではありません。

しかしながら、大自然の中で生きていく必須の問題や、熊や、鹿、狸の捌き方、食し方の場面に圧倒的な迫力と臨場感があります。

同僚選手も尊敬の念をもって、このバッターの秘技を見つめることでしょう。

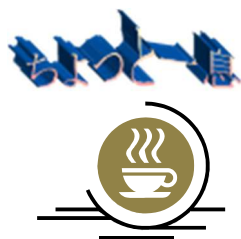
## 9番 玉村豊男 「料理の四面体」

作家稼業のかたわらに豊富な調理実践経験を有していますが、思い込み理論がみられ、一部のプロ選手からは注文がつけられることがあります。

取り上げた作品はレシピ本といってもよいもので、文学作品のジャンルには入りにくい物です。

ピンチヒッターとしてチャンスに長打をはなつタイプではありませんが、スタメンから外すわけにはいかないでしょう。

今回は監督といぶし銀の代打陣をご紹介します。



第一生命が毎年「サラリーマン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

第二十回 第一生命サラリーマン川柳コンクールより

胸騒ぎ 上司が敬語で 俺を呼ぶ	大江山の鬼
忘れぬよう メモした紙を また捜す	敢山
「直帰する」 妻の返事 「えっ！困る！！」	妻にアポ取り
病院も あつたらいいな ポイント制	溜め込みパパ
モンゴルに 相撲見に行く 日も近い	テンテコテン